

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4984040号
(P4984040)

(45) 発行日 平成24年7月25日(2012.7.25)

(24) 登録日 平成24年5月11日(2012.5.11)

(51) Int.Cl.

F 1

A 4 5 D 34/04 (2006.01)

A 4 5 D 34/04 5 1 5 A

B 6 5 D 83/00 (2006.01)

A 4 5 D 34/04 5 1 5 C

B 6 5 D 83/00 J

請求項の数 2 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2006-314722 (P2006-314722)
 (22) 出願日 平成18年11月21日(2006.11.21)
 (65) 公開番号 特開2008-125843 (P2008-125843A)
 (43) 公開日 平成20年6月5日(2008.6.5)
 審査請求日 平成21年11月20日(2009.11.20)

(73) 特許権者 000140915
 株式会社カツシカ
 東京都葛飾区西新小岩3丁目20番8号
 (72) 発明者 松岡和夫
 東京都葛飾区西新小岩3丁目20番8号
 株式会社カツシカ内

審査官 高島 壮基

(56) 参考文献 特開2000-342328(JP, A)
)
 特表2000-513990(JP, A)
)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 液状化粧料容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

一端に開口部を有し液状化粧料を収容する筒状の容器本体と、
 該容器本体の開口部を閉蓋するキャップと、
 筆毛を一方に揃え束ねたアプリケータと、
 該アプリケータに付着する液状化粧料を調整するよう漏斗状にしごき片を形成するとともに前記した開口部に設けられる払拭部材と、

前記したキャップの軸中心から垂下され、先端に軸長方向に直交する方向に膨出する膨出部を形成すると共に先端から前記アプリケータを軸長方向に植設する塗布棒とより構成され、

しごき片の先端で形成される払拭穴がアプリケータおよび塗布棒の外径より大きく且つ膨出部の外形より小さく形成され、塗布棒を容器本体より引き抜く際に膨出部がしごき片の端部を引き上げ、アプリケータをしごくことを特徴とする液状化粧料容器。

【請求項2】

前記払拭部材の内面中間位置にしごき片係止部を有し、
 該しごき片係止部が前記したしごき片の内面に係止することにより反転を防止することを特徴とする請求項1記載の液状化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、しごき部材を内装する液状化粧料容器等に関し、詳しくは筆毛を一方向に揃え束ねた筆状のアプリケータに付着する液状化粧料をしごき部材で調整する液状化粧料容器に関する。

【背景技術】

【0002】

アイライナー、マニキュア、リップブラシ等の液状化粧料は、容器本体より筆状のアプリケータに付着して適量を取り出され、睫毛、爪、唇等に塗布される。

【0003】

一般にアイライナー、マニキュア等の液状化粧料は粘性がありブラシ毛に多めの液状化粧料が付着する。そのため容器本体にアプリケータを挿通するしごき部材が挿入され、過剰に付着する液状化粧料は適量となるように調整される。

10

【0004】

このしごき部材はしごき片を有する。しごき片はアプリケータの外径より小さな穴径の払拭穴を形成することで払拭穴を挿通するアプリケータをしごく。そのためアプリケータが筆毛を一方向に揃えて構成された場合、挿入時に毛先等に折れや曲がりを生じ使い難くなるといった問題点があった。

【0005】

その解決策として特許文献1に記載されているようにしごき片を漏斗状に成形したものがある。しごき片を漏斗状に成形した場合、アプリケータの挿入時のしごき力を引き抜き時に対し軽減することが可能になるが、筆毛の折れや曲がりの原因を解決されてはいない。

20

【0006】

【特許文献1】特開2004-73525号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

特許文献1はアプリケータが容器から引き抜かれるとき過剰に付着する液状化粧料を適量に払拭する。またアプリケータが容器内に挿入されるときにはしごく力も小さく、払拭なしに挿入することを可能にする。

【0008】

30

しかし、払拭部材は容器本体の首部内にあって、アプリケータが引き抜かれる時しごき片の先端をアプリケータの外周に接し巻き込む。そのため払拭穴は予めアプリケータの外径より小さく形成されている。従ってアプリケータの挿入に際し払拭穴はアプリケータの外縁に当接し押し広げられることになる。これは筆毛を一方向に揃え束ねた筆状のアプリケータを用いる場合、毛先がワイパーに当接し繊細な毛先を屈曲させたり乱したりする不具合が生ずる原因となる。

【0009】

本発明は、このような問題点に鑑みてなされたもので、その目的とするところは容器の首部内は勿論、ワイパーとの接触なしにアプリケータを容器内へ挿入可能にする。さらに揃えられた筆毛の乱れをなくすると共にアプリケータに対する液状化粧料の付着量が安定する液状化粧料容器を提供することにある。

40

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明液状化粧料容器は、上記目的を達成するため払拭穴の内径をアプリケータの外周より大きくした液状化粧料容器を提供しようとするものである。

【0011】

即ち、一端に開口部を有し液状化粧料を収容する筒状の容器本体と、該容器本体の開口部を閉蓋するキャップと、筆毛を一方向に揃え束ねたアプリケータと、該アプリケータに付着する液状化粧料を調整するよう漏斗状にしごき片を形成するとともに前記した開口部に設けられる払拭部材と、前記したキャップの軸中心から垂下され、先端に軸長方向に直

50

交する方向に膨出する膨出部を形成すると共に先端から前記アプリケータを軸長方向に植設する塗布棒とより構成し、しごき片の先端で形成される払拭穴がアプリケータおよび塗布棒の外径より大きく且つ膨出部の外形より小さく形成され、塗布棒を容器本体より引き抜く際に膨出部がしごき片の端部を引き上げ、アプリケータをしごくものである。

【0012】

また払拭部材の内面中間位置にしごき片係止部を有し、該しごき片係止部が前記したしごき片の内面に係止することにより反転を防止するものである。

【発明の効果】

【0013】

本発明液状化粧料容器にあっては次に記載する効果を奏する。

10

即ち払拭部材の内径、払拭穴径を塗布棒、アプリケータの外周より大きく形成することによりアプリケータを払拭部材内面、しごき片に接触せずに液状化粧料容器に挿入することが可能となる。特に筆毛を使用する場合においては毛先を乱すことがなくなり、常に最適な状態でアプリケータの使用を可能にする。

【0014】

また塗布棒の先端に払拭部材の内径より小径で、払拭穴径より大きく膨出する膨出部を形成することによりアプリケータの引き抜きに際し、払拭部材を反転する。払拭部材の反転は払拭穴の径を狭めアプリケータに過剰に付着する液状化粧料を適正に払拭できるなどの効果がある。

【発明を実施するための最良の形態】

20

【0015】

次に本発明を具体化した各実施例について説明する。

図1は、本発明液状化粧料容器に係る組み立て説明図で右半分を断面図で示す。

本発明に係る液状化粧料容器は、上部に開口部33を有する首部13とともにマスカラ等の液状化粧料100を収容する筒状の容器本体3と、開口部33を閉蓋可能に螺着するキャップ1からなる。キャップ1の開口側には塗布棒5が垂設されている。塗布棒5の先端部には筆毛91の方向を揃えて筆状に植設したアプリケータ9が設けられている。塗布棒5の先端は外径を膨出した膨出部51が形成されている。

【0016】

払拭部材7は首部13内に嵌着されている。また払拭部材7はゴム弾性材で成形され、アプリケータ9に付着した液状化粧料100を払拭調整する。払拭部材7の下端は払拭穴73を有する漏斗状のしごき片71を形成している。しごき片係止部75はしごき片71の上方反転を防止するよう係止するもので払拭部材7の内面中央で膨出部51の挿通を妨げないように形成される。また払拭穴73の穴径は膨出部51を除く塗布棒5の外径およびアプリケータ9の外径より大きく形成され、また膨出部51の外径より小さく形成される。

30

【0017】

図2はアプリケータの装入過程説明図である。

図に基づきアプリケータの装入過程における塗布棒と払拭部材との関係を説明する。図2(A)はキャップ1と容器本体3とを離間した状態にある。塗布棒5、アプリケータ9は開口部33側から払拭部材7に矢印A方向に挿入される。払拭部材7の下端に形成される払拭穴73は図2(B)に示すとおりアプリケータ9の外径よりも大きく開口されていることから塗布棒5の挿入に際しアプリケータ9をしごき片71に当接することなく挿入することができる。そのためアプリケータ9を構成する筆毛91は折れや曲がりを生ずることがなくなる。また払拭穴73を形成するしごき片71は漏斗状を形成するため筆毛91がしごき片71の内面に接触する場合でも接触角が小さく筆毛91の折れや乱れは生じにくい。

40

【0018】

塗布棒5を矢印A方向にさらに挿入すると、膨出部51が漏斗状のしごき片71の内面に嵌合し図2(C)に示すように払拭穴73を押し広げ、さらに図2(D)に示すようにア

50

アプリケーション９を容器本体３内の液状化粧料１００内に浸漬する。

【００１９】

図３はアプリケーションの引き抜き過程説明図である。

図２（Ｄ）の状態から塗布棒５を矢印Ｂ方向に引き上げると、膨出部５１が形成する肩部５３に払拭穴７３を形成するしごき片７１の先端が当接し、図３（Ｂ）に示されるように引き上げられる。この時払拭穴７３はアプリケーション９の外径より小さく狭められる。

【００２０】

さらに塗布棒５を引き上げると膨出部５１に当接し引き上げられたしごき片７１の内面はしごき片係止部７５に係止され反転を防止する。そこで塗布棒５は図３（Ｃ）に示されるように狭められた払拭穴７３の下面から上面に挿通される。この段階で払拭穴７３を形成するしごき片７１はアプリケーション９の側部に接し、復元力と摩擦力がバランスし引き上げられた状態を維持する。したがってアプリケーション９に付着した液状化粧料１００は狭められた払拭穴７３で扱かれ適量に調整される。

【００２１】

尚、しごき片７１の反転を防止する手段はしごき片係止部７５を設ける以外に、漏斗状のしごき片７１上端側を払拭穴７３の側より厚く成形することで変形量を規制することも可能である。

【００２２】

塗布棒５をさらに引き上げることによりアプリケーション９はしごき片７１の払拭穴７３を挿通され接触が解除される。この時しごき片７１は復元力により元の漏斗状に戻される。

【００２３】

以上説明のとおり本発明液状化粧料容器にあっては発明の効果の欄に記載する効果を奏する。尚本説明でアプリケーションを筆毛の方向を揃えた筆状のものとして説明してきたが、スポンジ状のアプリケーション、ブラシ状のアプリケーションを使用することも良い。また図面に基づき、特定の実施の形態をもって説明を加えてきたが、本発明は図面に限定するものではなく、既に知られている本発明の効果を奏するどのような構成も採用されることができるとは言うまでもないことである。

【図面の簡単な説明】

【００２４】

【図１】本発明液状化粧料容器に係る組み立て説明図である。

【図２】アプリケーションの装入過程説明図である。

【図３】アプリケーションの引き抜き過程説明図である。

【符号の説明】

【００２５】

- １・・・キャップ
- ３・・・容器本体
- ５・・・塗布棒
- ７・・・払拭部材
- ９・・・アプリケーション
- １１・・・雌螺子
- １３・・・首部
- ３１・・・雄螺子
- ３３・・・開口部
- ５１・・・膨出部
- ５３・・・肩部
- ７１・・・しごき片
- ７３・・・払拭穴
- ７５・・・しごき片係止部
- ９１・・・筆毛
- １００・・・液状化粧料

10

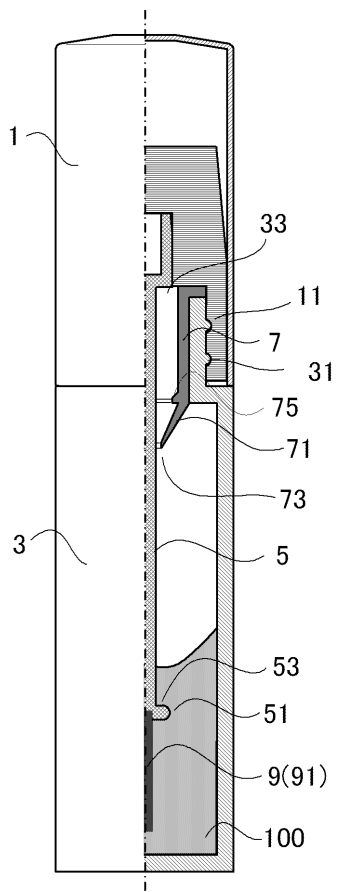
20

30

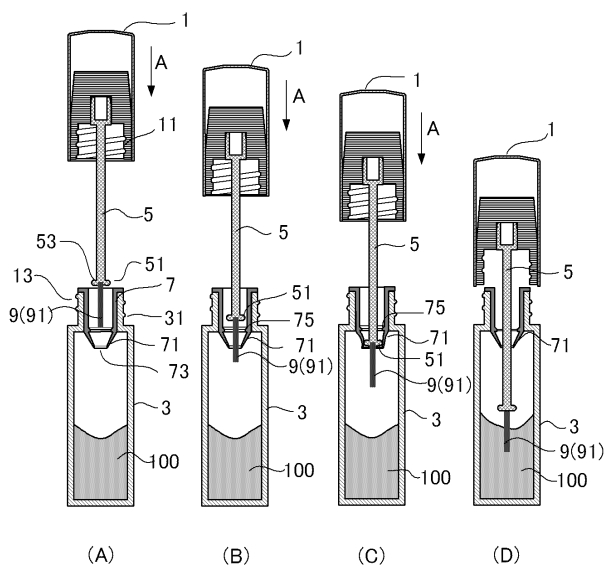
40

50

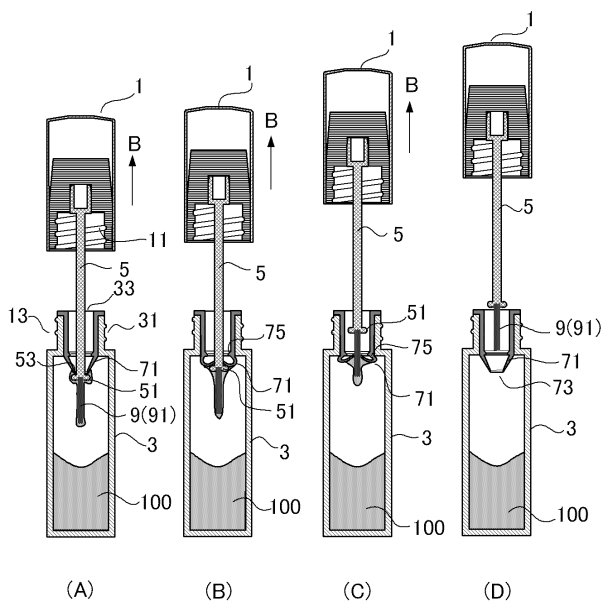
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A 4 5 D 3 4 / 0 4

B 6 5 D 8 3 / 0 0